



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月4日

上場会社名 ソーダニッカ株式会社

上場取引所 東

コード番号 8158 URL <https://www.sodanikka.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 長洲 崇彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼常務執行役員経理本部長 (氏名) 目崎 龍二 TEL 03-3245-1803

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 2022年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	30,027	13.4	833	47.9	1,092	66.6	797	54.5
2022年3月期第2四半期	26,480		563	58.6	655	30.1	515	58.5

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 524百万円 (39.1%) 2022年3月期第2四半期 861百万円 (20.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	35.14	
2022年3月期第2四半期	20.96	

(注) 前第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2022年3月期第2四半期に係る売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	63,807	25,409	39.8
2022年3月期	60,854	25,229	41.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 25,409百万円 2022年3月期 25,229百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		8.00		16.00	24.00
2023年3月期		13.00			
2023年3月期(予想)				13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,100	10.1	1,660	32.5	2,110	35.9	1,500	9.7	66.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	22,968,000 株	2022年3月期	23,968,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	269,086 株	2022年3月期	1,299,663 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	22,680,702 株	2022年3月期2Q	24,607,798 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、供給制約の緩和等を背景に生産活動の回復がみられ、加えて欧州やアジア向け輸出が堅調に推移するなど、緩やかな持ち直し基調を維持しました。しかし、世界的な金融引締めによる海外経済の減速や、物価上昇等の下押し要因が依然として残存し、引き続き注意を要する状況となりました。

当社グループに関係の深い化学産業を中心とする国内製造業につきましても、多くの業種において生産活動の持ち直しの動きがみられたものの、直近では資源高や円安を背景とした原材料コストの増加等の影響により、一部の業種では景況感の悪化もみられました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては中期経営計画「Go forward STAGE2」の最終年度として、目標とする経営指標の継続的達成を目指すとともに、サステナビリティやガバナンスに関する取り組みの推進等も含め、更なる企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高 30,027 百万円（前年同期比 13.4%増）、営業利益 833 百万円（同 47.9%増）、経常利益 1,092 百万円（同 66.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 797 百万円（同 54.5%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。また、各セグメントに属する商品群及び、主な構成要素を以下表に記載いたします。

表：各セグメントに属する商品群及び主な構成要素

セグメント	商品群等	主な構成要素
化学品事業	ソーダ関連薬品	か性ソーダ、塩酸等のソーダ工業に関する薬品
	その他の無機薬品	硫酸、アンモニア等のソーダ関連薬品以外の各種無機薬品
	有機薬品	溶剤、界面活性剤等の各種有機薬品
	その他	キレート剤、グラウト材料等、上記に属さない化学薬品
機能材事業	包装関連商品	フィルム、容器、包装関連機器等の包装に関連する各種商品
	合成樹脂関連商品	樹脂原料、添加剤、成型品等の合成樹脂に関する各種商品
	設備・工事・産業材料	汎用機械、生産用機械等の各種設備、付帯工事及びエレクトロニクス、建築向け等の産業材料
	その他	雑貨品等、上記に属さない工業用資材等
その他事業	連結子会社 8 社	ソーダニッカビジネスサポート(株)、曹達日化商貿(上海)有限公司、PT. SODA NIKKA INDONESIA、(株)日本包装、SODA NIKKA VIETNAM CO., LTD.、モリス(株)、(株)日進、(有)野津善助商店
	賃貸収入	保有動産・不動産等の賃貸による収入

【化学品事業】

売上高は前年同期に比べ16.8%増の19,906百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ17.5%増の1,387百万円となりました。セグメント利益への影響を基準とした、商品群別の取引推移等は以下のとおりであります。

ソーダ関連薬品は好調に推移いたしました。主力商品のか性ソーダは、食品業界における需要増加や商品の価格改定等により、塩酸は化学業界及びエレクトロニクス業界における需要増加や商品の価格改定等により取引増加となりました。また重炭酸ソーダは清掃工場や日用品業界における需要増加により取引増加となりました。

その他の無機薬品は好調に推移いたしました。鉄化合物は化粧品需要の回復に伴い取引増加となりました。またカリウム化合物は原料市況の高騰により各業界向けで取引増加となったほか、アルミニウム化合物は自治体向け水質処理剤の新規受注等により取引増加となりました。

有機薬品は好調に推移いたしました。界面活性剤は日用品業界向けの販売シェア拡大により取引増加となりました。また高分子凝集剤は製紙業界の需要増加により、フッ素系溶剤は金属の脱脂洗浄や溶剤用途での販売数量増加により取引増加となりました。

上記以外のその他の商品群は好調に推移いたしました。トイレタリー関連商品は外食産業の回復に伴う石鹼・洗剤需要の増加により取引増加となりました。

【機能材事業】

売上高は前年同期に比べ6.6%増の6,515百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ13.2%増の368百万円となりました。セグメント利益への影響を基準とした、商品群別の取引推移等は以下のとおりであります。

包装関連商品は堅調に推移いたしました。複合フィルムは環境配慮型の高付加価値商品の販売推進や各商品の価格改定等により、また包装フィルム・シートはアルミ箔の需給状況の改善に伴い取引増加となりました。一方で包装関連機器は前年同期の食品業界向けのスポット取引分が減少となりました。

合成樹脂関連商品は好調に推移いたしました。工業用製品は化学業界や食品業界向けの設備用樹脂部材等の受注により取引増加となりました。またガラス長繊維は国内でのロジスティクス機能の強化に伴い樹脂業界向けの取引が増加となり、ガラス短繊維は機械用断熱材の受注により取引増加となりました。

設備・工事・産業材料は堅調に推移いたしました。エレクトロニクス材料は、電子用部材や半導体基板向けフィルムの需要増加や新規受注により取引増加となりましたが、管工事は前年同期の化学業界向け等のスポット取引分が減少となりました。

【その他事業】

売上高は前年同期に比べ8.3%増の3,604百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期に比べ639.1%増の121百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明**【財政状態の分析】**

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ2,952百万円増加いたしました。

増減の主なものは資産の部では、受取手形、売掛金及び契約資産が3,223百万円増加し、現金及び預金が750百万円減少いたしました。負債の部では、支払手形及び買掛金が2,549百万円、短期借入金が413百万円それぞれ増加し、繰延税金負債が170百万円減少いたしました。純資産の部では、利益剰余金が282百万円、自己株式が737百万円、その他有価証券評価差額金が341百万円それぞれ減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の通期の連結業績予想につきましては、本日(2022年11月4日)公表いたしました「業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,482	6,732
受取手形、売掛金及び契約資産	35,903	39,126
商品及び製品	1,266	1,798
その他	674	588
貸倒引当金	△112	△121
流動資産合計	45,213	48,121
固定資産		
有形固定資産	2,191	2,774
無形固定資産	210	169
投資その他の資産		
投資有価証券	12,471	11,968
破産更生債権等	12	6
その他	769	770
貸倒引当金	△14	△7
投資その他の資産合計	13,239	12,738
固定資産合計	15,641	15,682
資産合計	60,854	63,807

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	27,627	30,177
短期借入金	2,766	3,180
未払法人税等	314	382
契約負債	231	177
引当金	338	350
その他	598	553
流動負債合計	31,877	34,821
固定負債		
繰延税金負債	1,653	1,482
退職給付に係る負債	1,234	1,266
その他	859	826
固定負債合計	3,747	3,575
負債合計	35,625	38,397
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	13,892	13,609
自己株式	△930	△192
株主資本合計	19,841	20,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,171	4,833
繰延ヘッジ損益	3	0
土地再評価差額金	198	196
為替換算調整勘定	69	136
退職給付に係る調整累計額	△57	△52
その他の包括利益累計額合計	5,388	5,114
純資産合計	25,229	25,409
負債純資産合計	60,851	63,807

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	26,480	30,027
売上原価	22,975	26,082
売上総利益	3,505	3,944
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	642	637
給料及び手当	945	984
賞与引当金繰入額	283	307
役員賞与引当金繰入額	12	16
退職給付費用	52	62
その他	1,006	1,103
販売費及び一般管理費合計	2,942	3,111
営業利益	563	833
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	163	209
その他	36	67
営業外収益合計	201	278
営業外費用		
支払利息	15	11
シンジケートローン手数料	85	6
その他	9	2
営業外費用合計	109	20
経常利益	655	1,092
特別利益		
固定資産売却益	-	19
負ののれん発生益	90	-
投資有価証券売却益	-	40
特別利益合計	90	60
特別損失		
損害補償損失引当金繰入額	14	-
特別損失合計	14	-
税金等調整前四半期純利益	730	1,152
法人税、住民税及び事業税	175	370
法人税等調整額	39	△15
法人税等合計	215	355
四半期純利益	515	797
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	515	797

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	515	797
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	315	△341
繰延ヘッジ損益	△6	△3
為替換算調整勘定	31	67
退職給付に係る調整額	5	4
その他の包括利益合計	345	△272
四半期包括利益	861	524
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	861	524
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	730	1,152
減価償却費	107	101
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△149	0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	30	38
受取利息及び受取配当金	△164	△210
支払利息	15	11
シンジケートローン手数料	85	6
固定資産除売却損益(△は益)	1	△19
売上債権の増減額(△は増加)	△188	△3,173
棚卸資産の増減額(△は増加)	128	△510
破産更生債権等の増減額(△は増加)	146	6
仕入債務の増減額(△は減少)	91	2,531
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△40
負ののれん発生益	△90	—
その他	281	△69
小計	1,024	△175
利息及び配当金の受取額	166	210
利息の支払額	△23	△9
法人税等の支払額	△278	△306
営業活動によるキャッシュ・フロー	890	△281
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△84	△83
定期預金の払戻による収入	119	93
有形固定資産の取得による支出	△62	△650
無形固定資産の取得による支出	△16	△11
投資有価証券の取得による支出	△14	△16
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△7	—
その他	18	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46	△583
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	150	517
短期借入金の返済による支出	△2,128	△113
自己株式の取得による支出	△777	—
配当金の支払額	△175	△361
シンジケートローン手数料の支払額	△81	△3
その他	△10	38
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,022	78
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	47
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,165	△739
現金及び現金同等物の期首残高	10,684	7,352
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,519	6,612

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社は、2022年5月10日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、2022年5月31日付で自己株式1,000,000株を消却しております。

この結果、当連結会計年度において、自己株式が715百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が192百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	17,040	6,111	3,328	26,480	—	26,480
セグメント間の内部 売上高又は振替高	60	367	494	922	△ 922	—
計	17,101	6,479	3,822	27,403	△ 922	26,480
セグメント利益	1,181	325	16	1,523	△ 959	563

(注) 1. セグメント利益の調整額△959百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「その他事業」のセグメントにおいて、有限会社野津善助商店の株式を取得し連結子会社としたことにより、負ののれん発生益を認識しております。当該事項による負ののれん発生益の計上額は、90百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	化学品 事業	機能材 事業	その他 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	19,906	6,515	3,604	30,027	—	30,027
セグメント間の内部 売上高又は振替高	79	478	685	1,242	△1,242	—
計	19,986	6,993	4,289	31,270	△ 1,242	30,027
セグメント利益	1,387	368	121	1,877	△ 1,044	833

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,044百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。